

○北 潔¹¹長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科

感染症にはいくつかの分類がある。その一つは「新興・再興感染症」で、前者はかつて知られていなかった新しく認識された感染症で局地的、あるいは国際的に公衆衛生上問題となる感染症であり、エイズ、エボラ出血熱やクリプトスポリジウム症が知られている。一方、後者は公衆衛生上問題とならない程度にまで患者数が減少していた感染症の中で、再流行により患者数が増加したものを指し、結核やマラリア、サルモネラやコレラなどがあげられる。

そして最近注目されてきたのが、「顧みられない熱帯病 Neglected tropical diseases」で、NTDs と呼ばれ WHO によって最近リストに加わったマイセトーマを含め 18 の感染症がリストされている。これらは貧困に根ざしている事から社会、国、国際社会そして企業から無視されてきた疾病であり、3 大感染症以外にも対策を重点的に行うべき感染症であるとの考え方に基づいている。この中には Dengue 熱、狂犬病などのウイルス性疾患、コレラ、ブルーリ潰瘍、ハンセン病などの細菌性感染症、そしてトリパノソーマ症、土壌媒介線虫症やエキノコックスを含む寄生虫症が含まれている。NTDs に関して解決すべき問題は山積しているが、中でも薬剤については最も対応が遅れている。それは「くすり」を買う購買力のない貧困層の感染症だからである。本講演では抗 NTDs 薬の現状と今後の方向性について紹介したい。